BT-Scan Service

Version 5.2

CSV 連携 KIT
取扱説明書

Rev2.9

始めに

このたびは、BT-Scan Service CSV 連携 KIT をご使用 購入いただき、誠にありがとうございます。

● この「 取扱説明書」は、BT-Scan Service CSV 連携 KIT の操作方法について記載してあります。

● BT-Scan Service の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、この「 取扱説明書 」を最後までお読みください。

● お読みになった後は、大切に保管してください。

● 機械をご使用中、不明な点がありましたら、この「取扱説明書」をご利用ください。

本書の内容は、「BT-Scan Service version 5.2」の取り扱いと操作について、ご理解いただいていることを前提に記述されています。
BT-Scan Service version 5.2 の取り扱いと操作で不明な点は、次の説明書を参照してください。
・「BT-Scan Service version 5.2 取扱説明書」

本書の内容は、BrainTech8090 α /BrainTech8181 αの取り扱いと操作について、ご理解いただいていることを前提に記述されています。
BrainTech8090/BrainTech8181 αの取り扱いと操作で不明な点は、次の説明書を参照してください。
・「BrainTech8090 α取扱説明書」
・「BrainTech8181 α取扱説明書」

本書の記載事項は、事前通知無しに変更される場合も有りますので、予め ご了承ください。

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で転載することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。
③ 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
④ お客様が機器を運用された結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。

目次

第 1 章 概要

1.1　CSV 連携 KIT とは

1.1 CSV 連携 KIT とは

CSV 連携 KIT とは、BT-Scan Service に以下のような機能を追加します。

1.1.1 主な機能

■ 連携処理

CSV 形式で記述された読み取り指示（スキャン指示情報ファイル）を BT-Scan Service に登録します。登録された読み取り指示を元に、読み取り作業（スキャン進捗情報ファイル）を生成します。読み取り作業を元に、原稿をスキャンすることによって読み取ったイメージデータと読み取り結果（スキャン結果情報ファイル）を保存します。

■ ウィザード形式による簡単な読み取り作業の設定

スキャン進捗情報ファイルを生成する際には、ウィザードを使用し、以下の指定が行えます。

・保存するファイル名
・スキャン作業に表示させる任意の列データ
・スキャン結果情報ファイルに残す任意の列データ

さらに登録情報をテンプレートに保存し、それを呼び出す事で、迅速な登録ができます。

■ スキャン進捗情報ファイルに基づいた読み取り作業

スキャン進捗情報ファイルを開き、未実施の読み取り作業（ジョブ）を進めていくことで、作業の状態を把握しながら、スキャンを行うことができます。

・読み取り未実施ジョブの自動抽出
・読み取り完了後の確認作業
・作業結果の一括処理

1.2 接続構成

BT-Scan Service CSV 連携を動作させるために必要な構成を以下に記述します。
尚、お使いいただく PC の CPU、メモリ、ハードディスク、ディスプレイ等は、各 OS の推奨値に準拠します。Microsoft 社の推奨システム要件を満たすシステムで運用してください。
Windows Vista / Windows 7 をご使用の場合は、1GB 以上のメモリ搭載を推奨します。Windows Server 2008 / Windows 8 / Windows 8.1 をご使用の場合は、2GB 以上のメモリ搭載を推奨します。
また、OS 毎にマイクロソフト社の Hardware Compatibility List（HCL）に登録されている PC 以外での動作は保証できません。
64bit OS には対応していません。
記載されたエディション以外には対応していません。

1.2.1 必要な機器 (SCSI 接続の場合)

■ スキャナ　BrainTech8090 α
または BrainTech8181 α SCSI キット

■ PC 側インターフェース　SCSI カードに応じた PCI スロットまたは PCI Express (PCIe) スロットの 1 つ以上の空きがあること

■ ハードディスク　500MB 以上の空きがあること

■ 対象 OS と SCSI カード

OS	Adaptec 社製 SCSI カード
Windows 2000(SP4) Professional 日本語版	2940AU (注 1)
Windows XP(SP2/SP3) Home 日本語版 Professional 日本語版	2940AU (注 2) 2915LP (注 2) 29160N (注 1)
Windows 2000 Server(SP4) 日本語版	29160N (注 1)
Windows Server 2003 R2(SP2) Standard Edition 日本語版	29160N (注 1)
Windows Vista(SP1/SP2) Ultimate 日本語版 Business 日本語版	2940AU (注 1) 29160N (注 2) 2915LP (注 2)
Windows Server 2008 (SP2) Standard 日本語版	29160N (注 2) 29160 (注 2) 2930LP (注 1) 2940AU (注 1) 29320LPE (注 1)
Windows 7 (SP1) Ultimate 日本語版 Professional 日本語版 Enterprise 日本語版	2915LP (注 1) 29320LPE (注 1)

OS	Adaptec 社製 SCSI カード
Windows 8 Pro 日本語版 Windows 8.1 Pro 日本語版	29320LPE (注 1)

OS	SCSI Pro Shop 製 SCSI カード
Windows 7 (SP1) Ultimate 日本語版 Professional 日本語版 Enterprise 日本語版	PCI30LHV (注 3)
Windows 8 Pro 日本語版 Windows 8.1 Pro 日本語版	PCI30LHV (注 3)

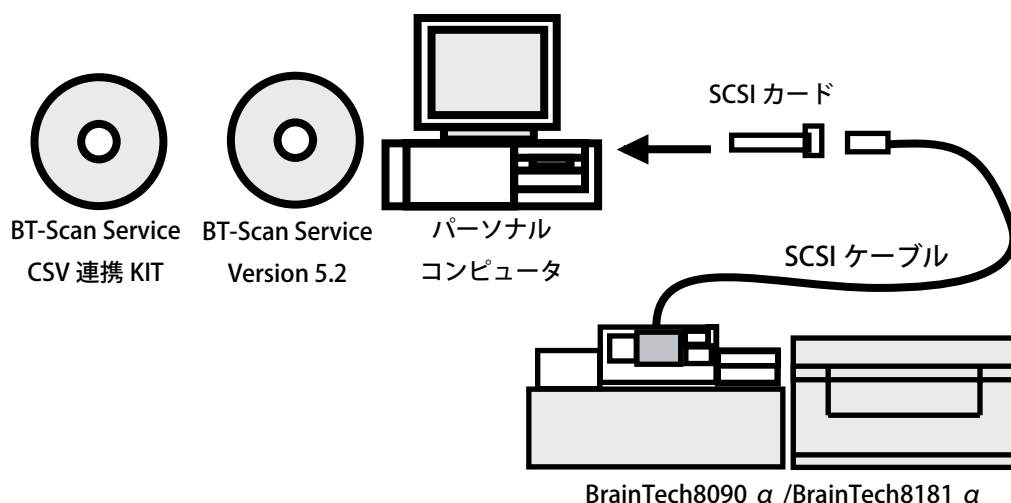
注 1　メーカー提供の最新ドライバーをダウンロードしてご使用ください。

注 2　OS に同梱のドライバーをご使用ください。メーカーより最新のドライバ提供があった場合には更新をお勧めします。

注 3　Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 で使用する場合には『Windows 7 Driver』が必要です。

■ ASPI マネージャ　ASPI32.SYS（Version4.71.2）
WNASPI32.DLL（Version4.71.2）

■ BT-Scan Service アプリケーションプログラム
・BT-Scan Service V5.2 以上
・BT-Scan Service CSV 連携 KIT

■ DocuWorks アプリケーションプログラム (バージョン 6.0 以上)
(※ XDW 形式のファイルを扱う場合のみ必要)

1.2.2 必要な機器 (Ultra-SCSI コンバータ接続の場合)

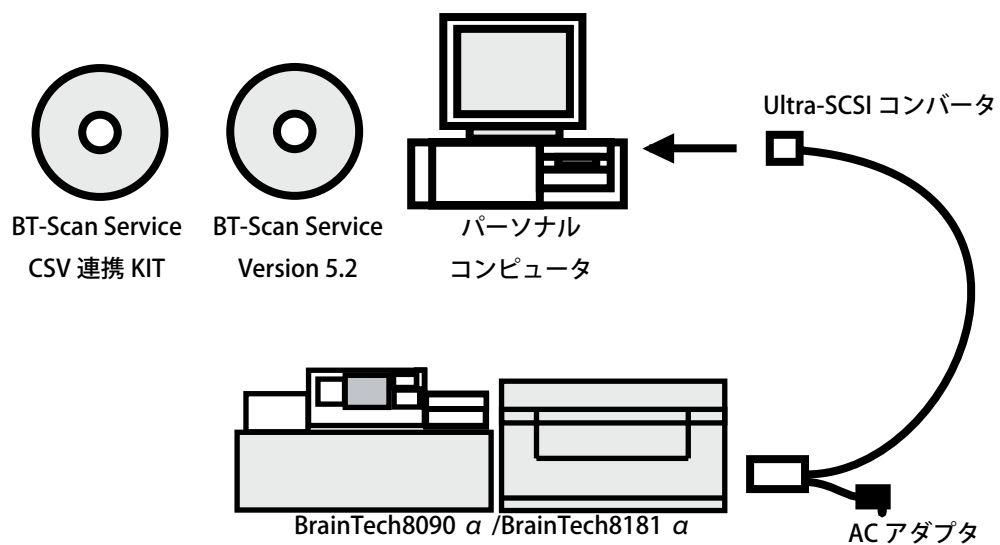
■ スキャナ　BrainTech8090 α
または BrainTech8181 α SCSI キット
■ PC 側インターフェース　USB2.0 インターフェース
■ ハードディスク　500MB 以上の空きがあること

■対象 OS と Ultra -SCSI コンバータ

OS	SCSI Pro Shop 製 Ultra-SCSI コンバータ
Windows XP(SP2/SP3) Home 日本語版 Professional 日本語版	U2SCX(注 1)
Windows Vista(SP1/SP2) Ultimate 日本語版 Business 日本語版	U2SCX(注 1, 注 2)
Windows 7 (SP1) Ultimate 日本語版 Professional 日本語版 Enterprise 日本語版	U2SCX(注 1, 注 2)

注 1　U2SCX 専用の AC アダプタを接続してご使用ください。
注 2　Windows Vista / Windows 7 で使用する場合には『U2SCX Vista / Windows 7 用ドライバー』(有償) が必要です。

■ ASPI マネージャ　ASPI32.SYS（Version4.71.2）
WNASPI32.DLL（Version4.71.2）
■ BT-Scan Service アプリケーションプログラム
・BT-Scan Service V5.2 以上
・BT-Scan Service CSV 連携 KIT
■ DocuWorks アプリケーションプログラム (バージョン 6.0 以上)
(※ XDW 形式のファイルを扱う場合のみ必要)

Ultra-SCSI コンバータ
BT-Scan Service
CSV 連携 KIT
BT-Scan Service
Version 5.2
パーソナル
コンピュータ
BrainTech8090 α /BrainTech8181 α
AC アダプタ

第 2 章 インストール

2.1　インストールの方法

2.1 インストールの方法

※ インストール作業は、システム管理者 (Administrator) の権限を持つユーザーでログインして行ってください。
※ BT-Scan Service 5.2 を先にインストールしてください。

2.1.1 インストール

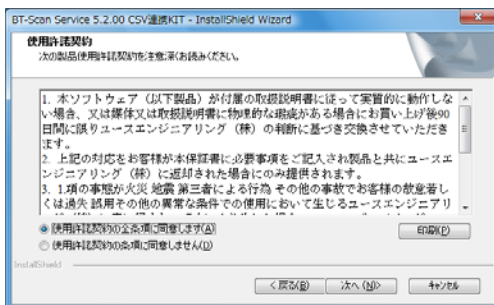
(1) インストールするパーソナルコンピュータに、システム管理者の権限でログインします。

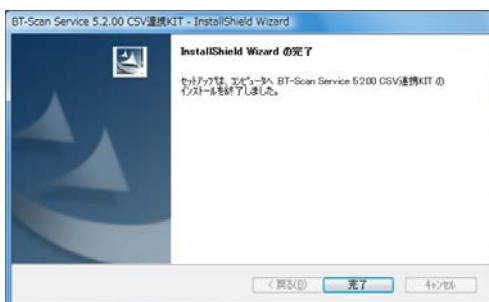
(2) インストール CD を CD ドライブに挿入し、“CD-ROM”を開いてディスクの内容を表示させせます。

(3) BT-Scan5200_00csvSetup をダブルクリックしてインストールプログラムを起動します。

(4) Windows Vista / Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 の場合、ユーザーアカウント制御の確認ダイアログが表示されます。

- Windows Vista の場合、「許可（A）」を選択してください。
- Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 の場合、「はい (Y)」を選択してください。

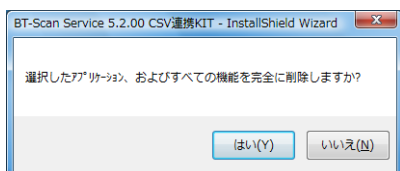
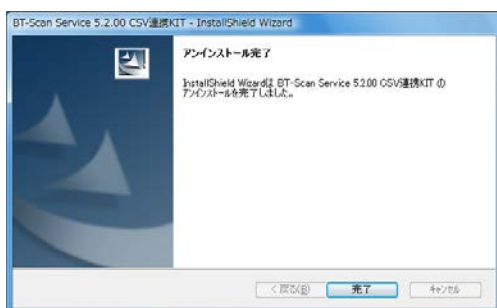
(5) セットアップが始まります。

(6) 保証規定が表示されます。規定に同意されるなら、「はい」ボタンをクリックします。

(7) インストール開始の確認を行います。「インストール」のボタンをクリックすると BT-Scan Service のプログラムが入っているフォルダに設置されます。

(8)「完了」をクリックするとインストール作業は完了します。

以上でインストールは終了しました。
BT-Scan Service を起動すると、CSV 連携機能が利用できるようになります。

2.1.2 コントロールパネルからアンインストールする方法

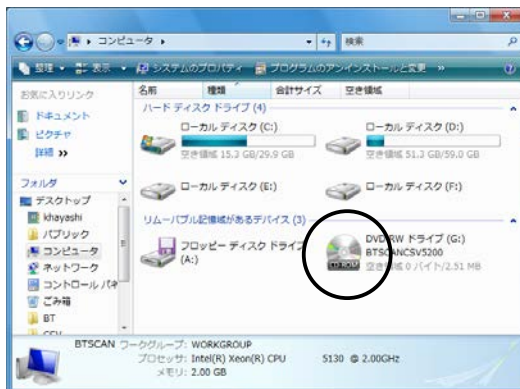
(1)　コントロールパネルを開いて「プログラムのアンインストール」をダブルクリックします。

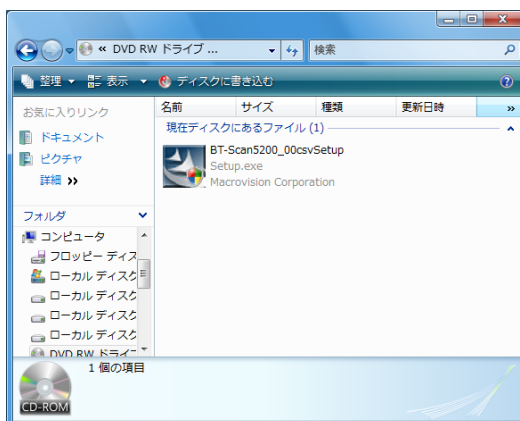
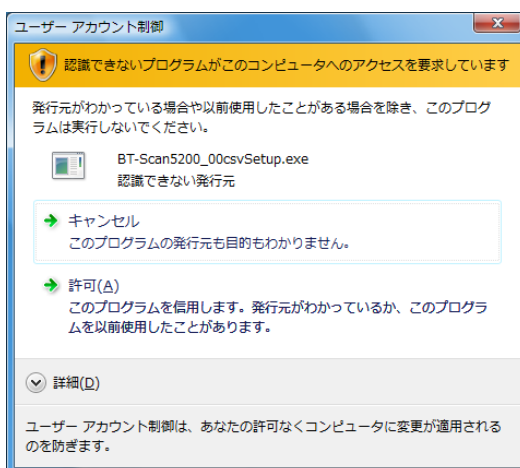
(2)　BT-Scan Service5.2 .00CSV 連携 KIT を選択してアンインストールをクリックします。

(3)　アンインストール確認のダイアログが表示されます。「はい」をクリックするとアンインストールが開始されます。「いいえ」をクリックすればアンインストールを取り消します。

(4)　アンインストール終了のダイアログが表示されたら、「完了」ボタンを押して終了します。

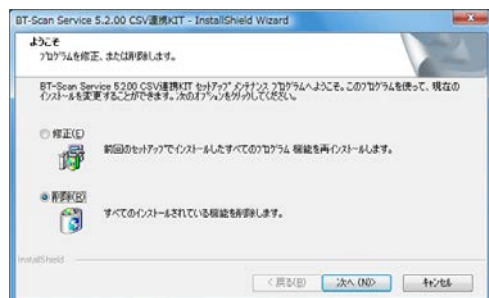
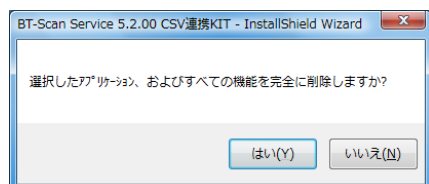
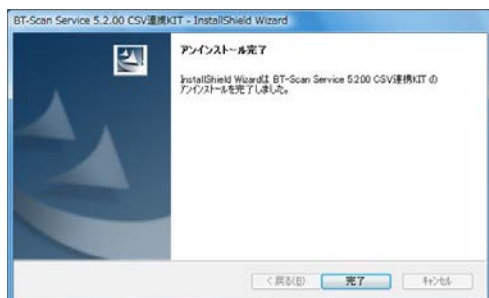
以上でアンインストールは終了しました。

Note:　CSV 連携 KIT をアンインストールしても、BT-Scan Service の基本機能は利用することが出来ます。

Note:　CSV 連携 KIT をアンインストールしても、スキャン進捗情報ファイル、ラベル、テンプレートは削除されません。
削除したい場合は、C:¥Program Files¥BT-Scan Service 5.2.00 の中にある job フォルダを削除して下さい。

2.1.3 インストール CD からアンインストールする

(1) インストールするパーソナルコンピュータに、システム管理者の権限でログインします。

(2) インストール CD を CD ドライブに挿入し、“CD-ROM”を開いてディスクの内容を表示させます。

(3) BT-Scan5200_00 csvSetup をダブルクリックしてインストールプログラムを起動します。

(4) Windows Vista / Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 の場合、ユーザーアカウント制御の確認ダイアログが表示されます。

- Windows Vista の場合、
  「許可（A）」を選択してください。
- Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 の場合、
  「はい (Y)」を選択してください。

(5)「削除（R）」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。

(6)　アンインストール確認のダイアログが表示されます。「はい」をクリックするとアンインストールが開始されます。「いいえ」をクリックすればアンインストールを取り消します。

(7)　アンインストール完了のダイアログが表示されたら「完了」をクリックしてインストールプログラムを終了させてください。

以上でアンインストールは終了しました。

Note:　CSV 連携 KIT をアンインストールしても、BT-Scan Service の基本機能は利用することが出来ます。

Note:　CSV 連携 KIT をアンインストールしても、スキャン進捗情報ファイル、ラベル、テンプレートは削除されません。
削除したい場合は、C:¥Program Files¥BT-Scan Service 5.2.00 の中にある job フォルダを削除して下さい。

第 3 章 操作方法

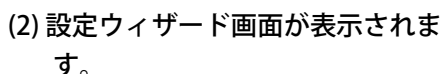
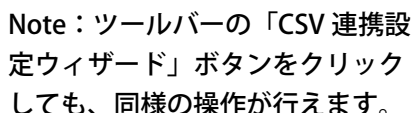
3.1 CSV 連携設定ウィザード

BT-Scan Service CSV 連携の設定ウィザードについて記述します。

3.1.1 スキャン進捗情報ファイルの指定

(1) ツールメニューから「CSV 連携設定ウィザード」を選択します。
Note：ツールバーの「CSV 連携設定ウィザード」ボタンをクリックしても、同様の操作が行えます。

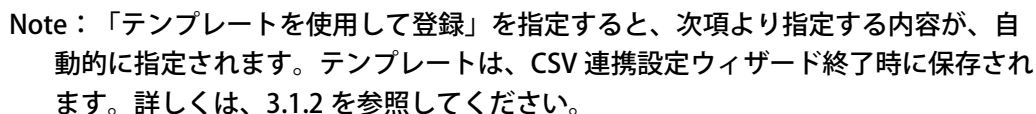
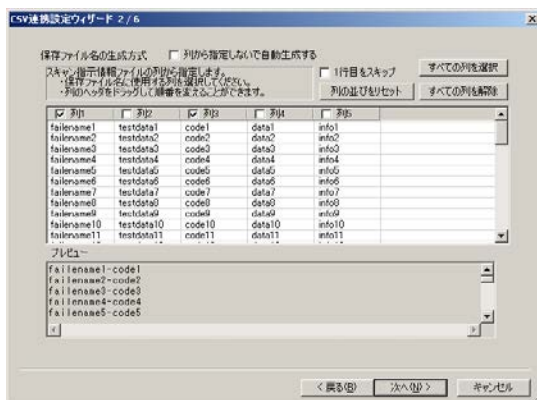
(2) 設定ウィザード画面が表示されます。

(3) をクリックして、スキャン指示情報ファイル（CSV 形式）を選択します。

(4) 読み取り設定がある場合は、「読み取り設定を指定する」にチェックを行い、をクリックして読み取り設定を選択します。

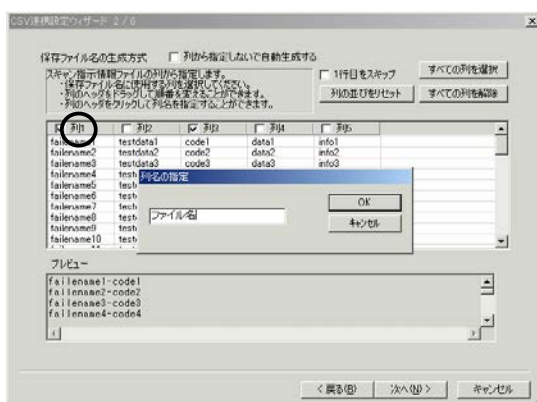
※標準設定を使用する場合は、読み取り設定を指定する必要はありません。

(5) 「次へ」ボタンをクリックします。

Note：「テンプレートを使用して登録」を指定すると、次項より指定する内容が、自動的に指定されます。テンプレートは、CSV 連携設定ウィザード終了時に保存されます。詳しくは、3.1.2 を参照してください。

テンプレートが存在しない時は、選択することが出来ません。

「以後の処理を自動処理する」にチェックした場合は、CSV 連携設定ウィザードの最終項目まで、自動処理を行います。

(6) スキャン指示情報ファイルのデータが表示されます。

(7) 保存ファイル名の付け方を指定します。ファイル名は選択した列のデータをハイフン (ー) で繋いだものになります。

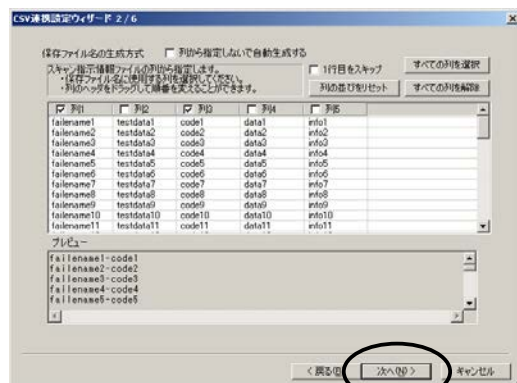
Note: 列を接続する、ハイフン (ー) は環境設定の「保存ファイル名生成結合文字」で変更できます。
3.7.1 を参照して下さい。

(8) 列のヘッダをチェックすると、ファイル名として使用します。列の順番を変えるには、列のヘッダをマウスでドラッグして入れ替えます。

・ヘッダの名称変更
ヘッダの名称を変更したい場合はチェックボックス以外の部分をクリックするとヘッダの名称変更 (最大 29 文字) が行えます。

・全ての列を選択
全ての列がチェックされます。

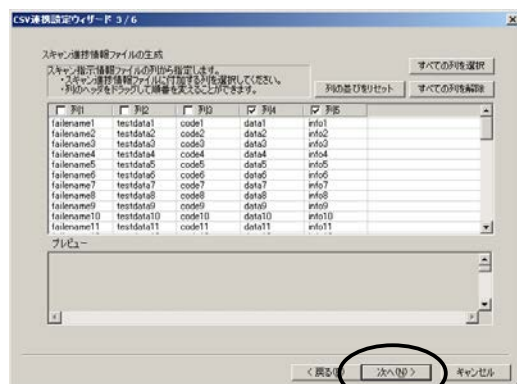
・全ての列を解除
全てのチェックが解除されます。

Note:「列から指定しないで自動生成する」をチェックすると、image から始まるファイル名が自動的に生成されます。

Note:「1 行目をスキップ」をチェックすると、スキャン指示情報ファイルの 1 行目が削除されます。

(9) 「次へ」ボタンをクリックします。

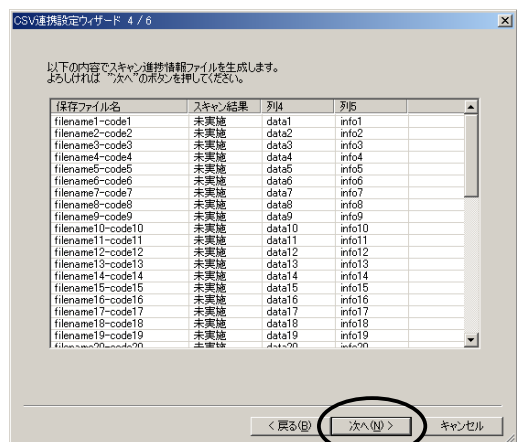
Note: クリック後、以下のチェックを自動的に行います。

・ファイル名に使用できない文字 (\ / : , ; * ? " < > | ¥ ˜) が含まれないか。
・ファイル名の文字列長が長過ぎないか。
・ファイル名が他の行と重複しないか。

妥当性に問題なければ、次の画面に移行します。

(10) スキャン指示情報ファイルのデータがもう一度表示されます。

(11) スキャン進捗情報ファイルに付加する任意の列を指定します。

Note: この列の指定は、ファイル名には使用しないが、読み取りの際に識別を行うなどの目的に使用できます。
ファイル名以外必要ない場合は、選択を行わなくても、次へ進むことが出来ます。

(12) 「次へ」ボタンをクリックします。

(13) ここまでに指定した内容が表示されます。もし希望通りでなければ、「戻る」ボタンをクリックして、指定をやり直すことができます。

(14) 指定に問題がなければ「次へ」ボタンをクリックします。

(15) スキャン結果情報ファイルの指定を行います。

(16) スキャン結果情報ファイルを生成しない場合は、「スキャン結果情報ファイルを生成しない」をチェックし、手順 (18) に進んでください。

スキャン結果情報ファイルは、読み取りを行い、保存先に転送される際に、読み取りに関する情報として同時に転送される CSV 形式のデータです。

3.1.2 スキャン結果情報ファイルの指定

(17) スキャン結果情報ファイルに追加するデータを選択します。指示に基づいて、スキャン結果情報ファイルに出力する内容をプレビューに表示します。プレビューで確認しながら以下の設定を行います。

・保存ファイル名を出力する
スキャン結果情報ファイルに保存ファイル名を出力します。

・保存ファイル名の位置
保存ファイル名の列が「行の先頭」か「行の最後」かを選択します。

・ラベルを出力する
スキャン結果情報ファイルの 1 行目にラベルデータ出力します。

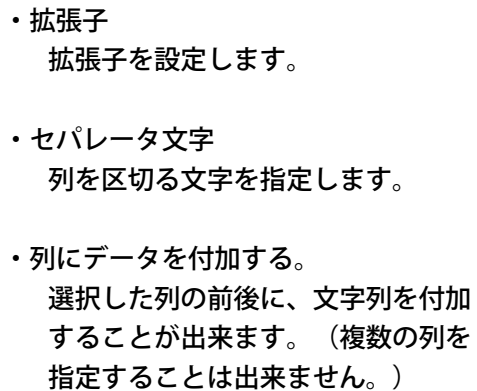
Note: ラベルはあらかじめ "C:¥Program Files¥BT-Scan Service 5.200¥job¥label" フォルダの中に作成したテキストファイルを入れておく事で、選択することが出来ます。

・スキャンファイル毎に生成する
チェックをした場合、1 つのスキャンファイルに対して 1 つのスキャン結果情報ファイルを生成します。(スキャン結果情報ファイルのファイル名は、スキャンファイルと同じファイル名が適用されます。)
チェックを外すと、1 回のチェックイン中にスキャンした全ファイルに対して 1 つのスキャン結果情報ファイルに生成します。(スキャン結果情報ファイルのファイル名は、スキャン進捗情報ファイルと同じファイル名が適用されます。)

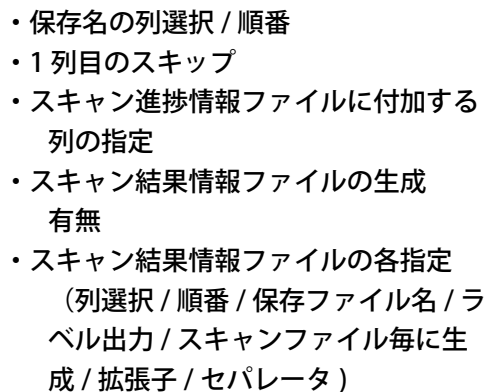
・拡張子
　拡張子を設定します。

・セパレータ文字
　列を区切る文字を指定します。

・列にデータを付加する。
　選択した列の前後に、文字列を付加することが出来ます。（複数の列を指定することは出来ません。）

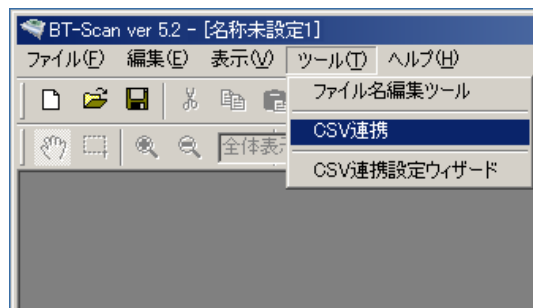
(18) 「次へ」ボタンをクリックします。

(19) CSV 連携設定をテンプレートに保存することができます。次回同様な設定でスキャン進捗情報ファイルを生成する際に、各ステップで指定する手間を省くことができます。保存できる設定は以下のとおりです。

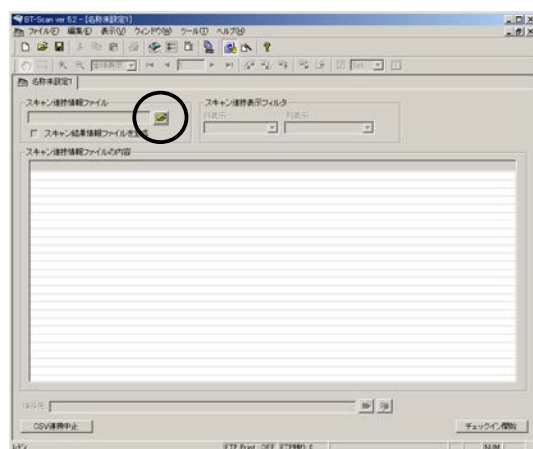
・保存名の列選択 / 順番
・1 列目のスキップ
・スキャン進捗情報ファイルに付加する列の指定
・スキャン結果情報ファイルの生成有無
・スキャン結果情報ファイルの各指定（列選択 / 順番 / 保存ファイル名 / ラベル出力 / スキャンファイル毎に生成 / 拡張子 / セパレータ）

(20)「完了」ボタンをクリックして、ウィザードを完了します。

Note:「CSV 連携読み取りを開始する」をチェックして、「完了」ボタンをクリックすると、生成したスキャン進捗情報ファイルを開いて、3.2 で説明する、CSV 連携を開始することができます。

3.2 CSV 連携の開始

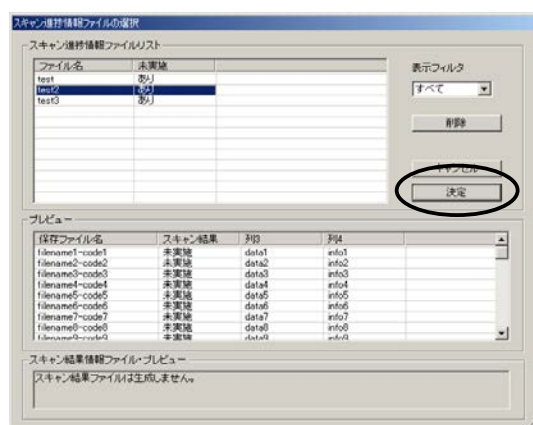
BT-Scan Service CSV 連携について記述します。

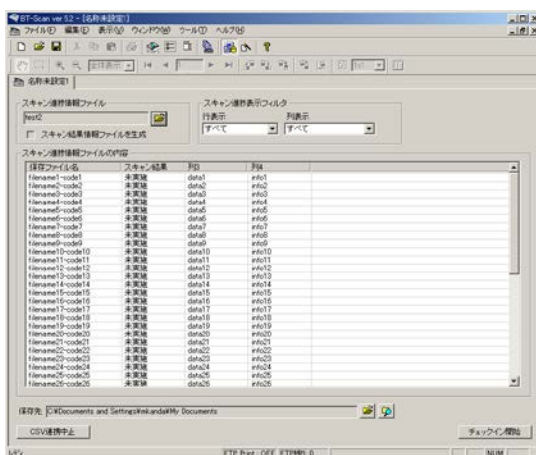
3.2.1 CSV 連携開始手順

(1) ツールメニューから「CSV 連携」を選択します。

Note：ツールバーの「CSV 連携」ボタンをクリックしても、同様の操作が行えます。

(2) CSV 連携画面が表示されます。

(3) をクリックすると、スキャン進捗情報ファイルを選択するウィンドウが開きます。

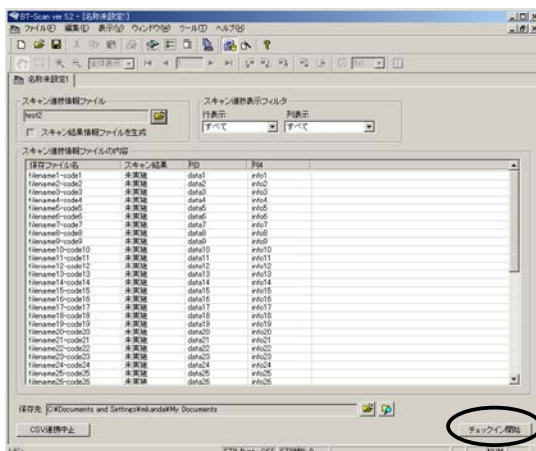
(4) 作業を開始したいスキャン進捗情報ファイルを選択し、「決定」ボタンをクリックします。

Note: すでに開いているスキャン進捗情報ファイルは、この一覧に表示されません。

Note:「表示フィルタ」を切り替えることで、未実施項目のあるスキャン進捗情報ファイルを抽出して表示することができます。

Note: 不要になったスキャン進捗情報ファイルを削除するときは、該当するスキャン進捗情報ファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

(5) 指定したスキャン進捗情報ファイルの内容が表示されます。

Note: スキャン結果をクリックすると、ポップアップメニューが表示されて、状態を「未実施」から「未実施完了」変えることができます。
チェックインを行った時、スキャン結果が「未実施」のジョブのみが、スキャンリストに入ります。

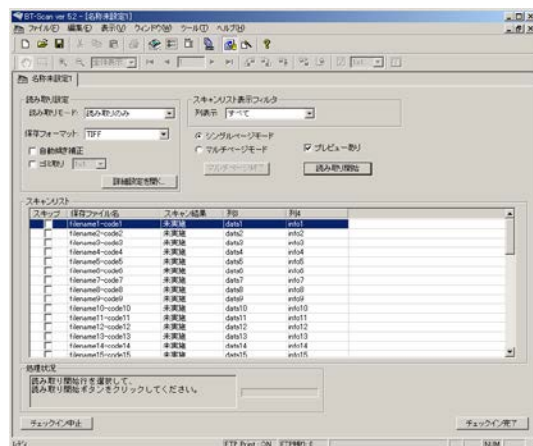
「スキャン結果情報ファイルを生成しない」の設定をした場合は、「完了」ジョブを「未実施」に変更する事が出来ます。

※「未実施完了」、「未実施」のジョブを「完了」に変更することは出来ません。

(6) 「チェックイン開始」ボタンをクリックすると、チェックイン画面に切り替わり、読み取り作業を開始できます。

(7) 「CSV 連携中止」ボタンをクリックすると、スキャン進捗情報ファイルを閉じて、CSV 連携画面から、通常の読み取り画面に切り替わります。

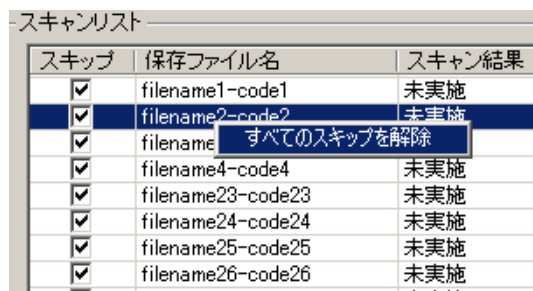
3.3 CSV 連携チェックイン

BT-Scan Service CSV 連携チェックインについて記述します。

3.3.1 CSV 連携チェックイン手順

(1) 3.2 を参照してチェックイン画面に切り替えます。

(2) スキャン進捗情報ファイルの中から、未実施になっているジョブが抽出されて表示されます。

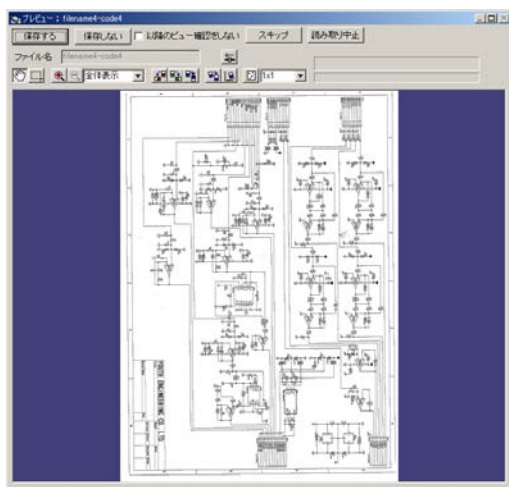
(3) 読み取りモード /「自動傾き補正」「ゴミ取り」「プレビューあり」などを必要に応じて設定します。

Note: 設定内容は別冊の「BT-Scan Service Version 5.2 取扱説明書」をご覧ください。

(4) 各ジョブの行「スキップ」をクリックしてチェックすると、そのジョブの読み取りは自動的にスキップされます。

Note: 読み取りする原稿がない場合などに使用します。

Note: リスト上で右クリックすると、全てのジョブに対するスキップ解除を簡単にすることできます。

(5) 読み取りを開始するジョブの行を選択して、「読み取り開始」ボタンをクリックします。

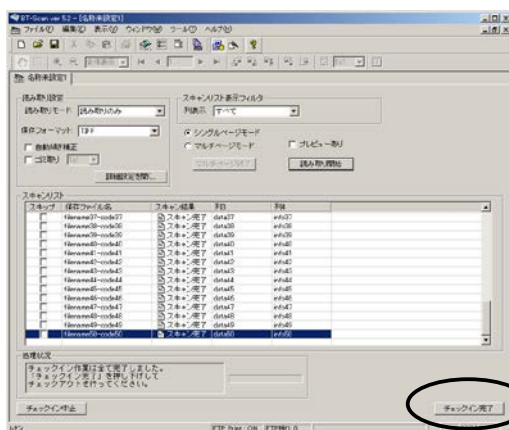
Note: 読み取りを開始した後は、開始するジョブの行やスキップ指定は変更できません。

(6) スキャナに原稿を挿入し読み取りを行います。

(7) 「プレビューあり」の場合は、読み取り後のプレビューが表示されます。

" 保存する "-- 読み取りを保存して次のジョブに移ります。(マルチページ読み取り中は、次のページに移ります。)

" 保存しない "-- 読み取りを破棄して、もう一度読み取りを行います。（ジョブは次に移りません）

" スキップ "-- 読み取りを破棄してスキップします。（ジョブは次に移り、そのスキャン結果はスキップとして表示されます）

" 読み取り中止 "-- 読み取りを破棄して読み取りを中止します。（ジョブは次に移りません）

(8) 順次スキャナに原稿を挿入し読み取りを行います。チェックイン画面のスキャン結果は「スキャン完了」に切り替わっていきます。

(9) 全ての読み取りが終わったら、「読み取り中止」ボタンをクリックして読み取りを止め、「チェックイン完了」ボタンをクリックします。次節のチェックアウトを参照してください。

(10) 「チェックイン中止」ボタンをクリックすると、チェックイン画面を閉じて、CSV 連携画面に切り替わります。この場合、スキャン完了したジョブは全て破棄されます。

3.4 CSV 連携マルチページの読み取り

チェックイン画面および再度チェックイン画面での、マルチページの読み取りについて記述します。

3.4.1 CSV 連携マルチページの読み取り手順

(1) 「シングルページモード／マルチページモード」の選択を「マルチページモード」にします。
これで、現在のジョブはマルチページとして読み取りが行われ、原稿を挿入して保存を行っても次のジョブには移らなくなります。

(2) スキャン結果は、「ページ追加中」の表示になります。

(3) マルチページを終えるには、「マルチページ終了」ボタンをクリックします。

Note:「シングルページ」に切り替えることでも、マルチページの終了を指示できます。この場合は、シングルページに切り替えても良いかを問い合わせる警告が表示されます。

(4) スキャン結果は「スキャン完了」に変わり、アイコン表示は として表示されます。
ジョブは次に移ります。

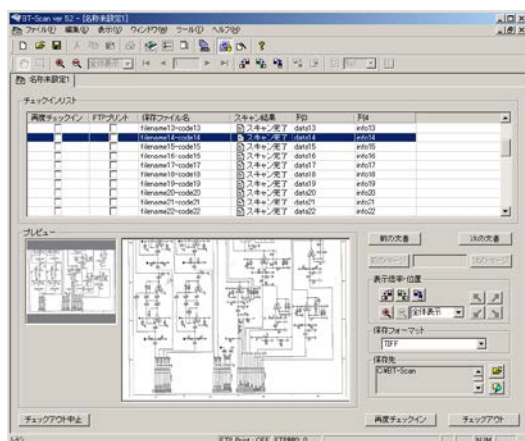
Note:1 ページしか読み込んでいない場合は、シングルページとして処理をします。

Note: マルチページで読み取り中に「読み取り中止」ボタンをクリックした場合、マルチページの終了になります。

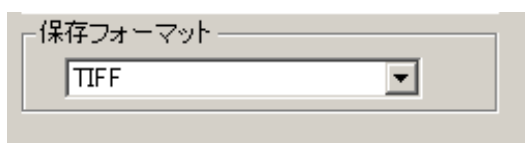
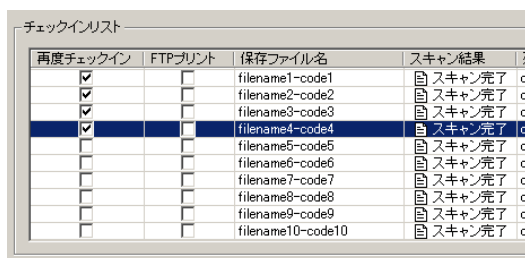
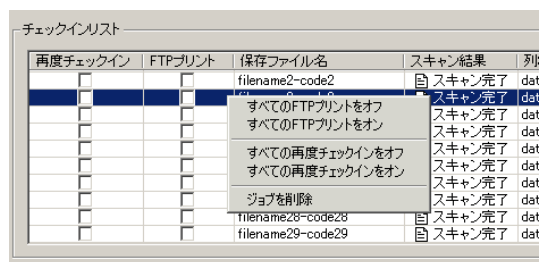
3.5 CSV 連携チェックアウト

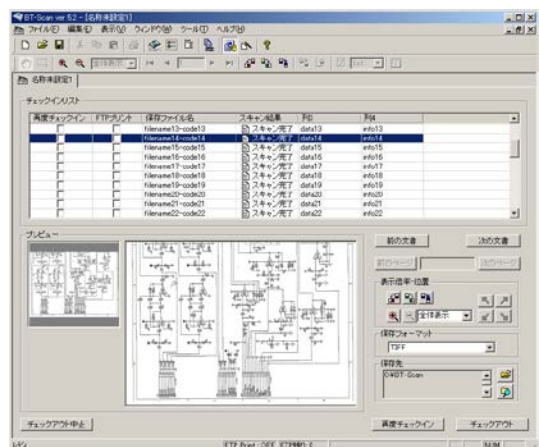
BT-Scan Service CSV 連携チェックアウトについて記述します。

環境設定で、「チェックアウト画面を表示する」を選択しない場合は、チェックアウト画面は表示されません。

3.5.1 CSV 連携チェックアウト手順

(1) 3.3 を参照してチェックアウト画面に切り替えます。

(2) スキャン進捗情報ファイルの中から、チェックイン画面でスキャン完了したジョブが抽出されて表示されます。

(3) チェックインリストの行をクリックすると、読み込んだ画像が表示されます。「前の文書」、「次の文書」ボタンをクリックすると、順次表示を切り替えます。
マルチページで読み込んだ文書は、「前のページ」、「次のページ」をクリックすることができ、各ページの画像を表示することができます。

(4)「保存フォーマット」に TIFF/PDF/XDW のいずれかを指定します。
チェックアウトをする全ての文書がこのフォーマットで保存されます。

(5) 読み取りに間違いが見つかったり、きれいに読み取れていない場合は、各ジョブの行「再度チェックイン」チェックボックスをチェックします。その後、右下の「再度チェックイン」ボタンをクリックすると、チェックしたジョブを再度読み取ることができます。次節再度チェックインを参照してください。

Note: リスト上で右クリックすると、すべてのジョブに対する再度チェックインと FTP プリントの指定及び、選択したジョブの削除が行えます。

※削除したジョブはスキャン進捗情報で「未実施」となります。

(6) 読み取りに問題なければ、「チェックアウト」ボタンをクリックします。
チェックアウト対象の全てが保存先に転送されます。スキャン結果情報ファイルを生成する指定の場合は、スキャン結果情報ファイルも保存先に転送されます。

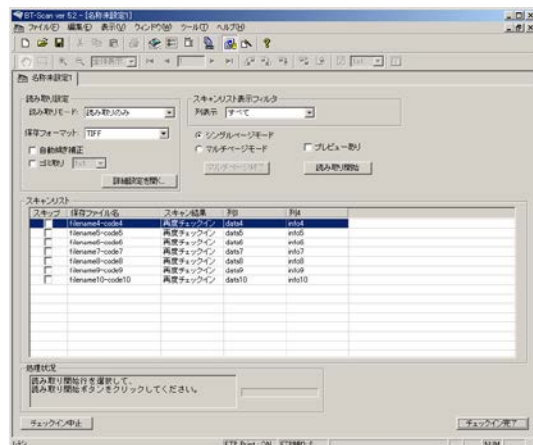
(7) チェックアウト処理の際に、FTP プリントを実施する場合は、各ジョブの「FTP プリント」をチェックします。

(8) チェックアウト処理が終わると、画面は最初の CSV 連携画面に切り替わり、先ほどチェックアウトを行ったジョブは全てスキャン結果が「完了」になります。

Note：「未実施」が残っている場合、「チェックイン開始」で再度チェックインから作業を始めることができます。

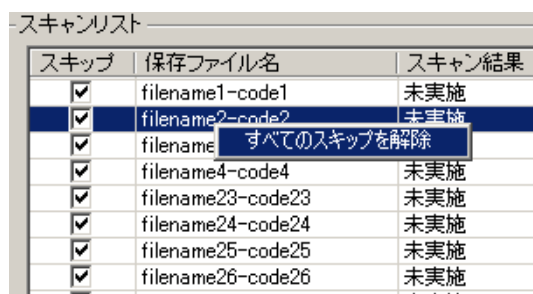
3.6 CSV 連携再度チェックイン

BT-Scan Service CSV 連携再度チェックインについて記述します。

3.6.1 CSV 連携再度チェックイン手順

(1) 3.5 を参照してチェックアウト画面で「再度チェックイン」ボタンをクリックすると再度チェックイン画面に切り替わります。

(2) チェックアウト画面で、再度チェックインに指定したジョブが抽出されて表示されます。各ジョブの「スキャン結果」は「再度チェックイン」として表示されます。

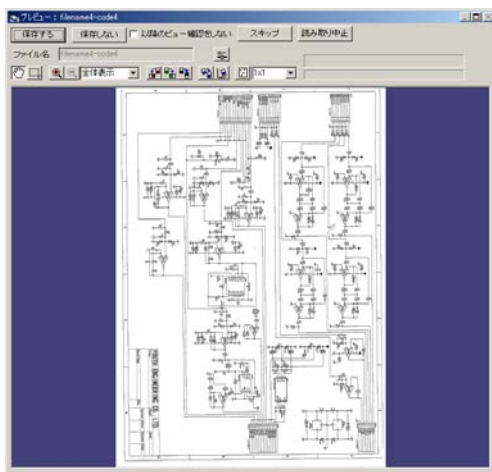
(3) 読み取り設定 / 詳細設定などを必要に応じて変更します。

Note: 詳細設定の内容は、通常の読み取りの設定方法と同一です。

(4) 各ジョブの行「スキップ」をチェックすると、そのジョブの読み取りは自動的にスキップされます。

Note: 読み取りする原稿がない場合などに使用します。

Note: リスト上で右クリックすると、全てのジョブに対するスキップ解除を簡単にすることできます。

(5) 読み取りを開始するジョブの行を選択して、「読み取り開始」ボタンをクリックします。

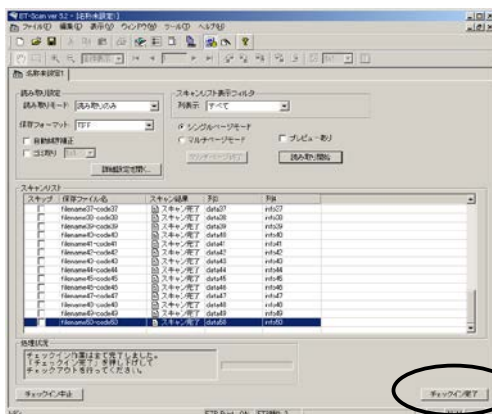
Note: 読み取りを開始した後は、開始するジョブの行やスキップ指定は変更できません。

(6) スキャナに原稿を挿入し、読み取りを行います。

(7) 「プレビューあり」の場合は、読み取り後のプレビューが表示されます。

" 保存する "-- 読み取りを保存して次のジョブに移ります。(マルチページ読み取り中は、次のページに移ります。)

" 保存しない "-- 読み取りを破棄して、もう一度読み取りを行います。（ジョブは次に移りません）

" スキップ "-- 読み取りを破棄してスキップします。（ジョブは次に移り、そのスキャン結果はスキップとして表示されます）

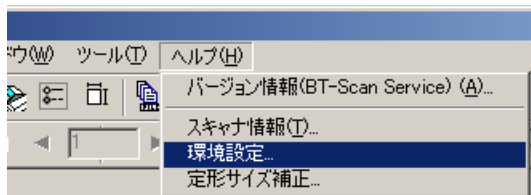
" 読み取り中止 "-- 読み取りを破棄して読み取りを中止します。（ジョブは次に移りません）

(8) 順次スキャナに原稿を挿入し読み取りを行います。チェックイン画面のスキャン結果は「スキャン完了」に切り替わっていきます。

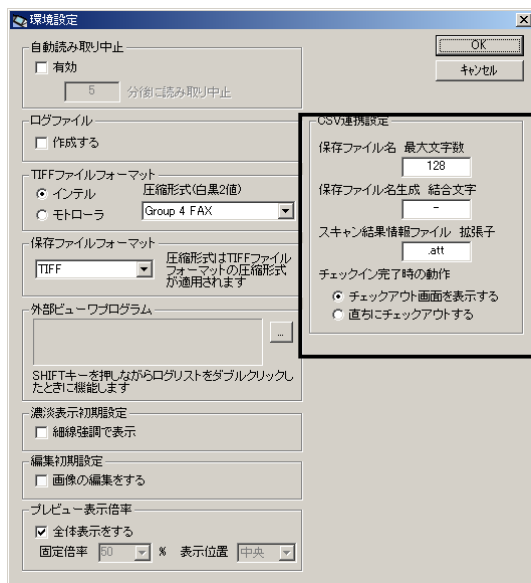
(9) 読み取りが終わったら、「読み取り中止」ボタンをクリックして読み取りを止め、「チェックイン完了」ボタンをクリックします。スキャン完了したジョブの読み取りは新しいものに取り代わり、チェックアウト画面に切り替わります。

(10) 「チェックイン中止」ボタンをクリックすると、スキャン完了しているジョブは、チェックアウト時の読み取りに戻り、チェックアウト画面に切り替わります。

3.7 CSV 連携環境設定

CSV 連携に関する BT-Scan Service5.2 の環境設定について記述します。

3.7.1 CSV 連携環境設定の説明

(1) 「ヘルプ」メニューから「環境設定」を選択すると、環境設定のウィンドウが表示されます。

(2) CSV 連携に関する設定は、右側にあります。

(3) 保存ファイル名　最大文字数
保存名に使用するファイル名の文字列の制限値を指定します。
指定可能な範囲は 32 文字以上 256 文字以内です。

(4) 保存ファイル名生成　結合文字
スキャン指示情報ファイルの列を組み合わせてファイル名を生成する際に結合する文字を指定します。
空文字は指定可能ですが、ファイル名に使用できない文字は指定できません。

(5) スキャン結果情報ファイル　拡張子
スキャン結果情報ファイルの拡張子を指定します。
ファイル名に使用できない文字は、指定できません。

(6) チェックイン完了時の動作
チェックイン画面で「チェックイン完了」ボタンをクリックしたときに、チェックアウト画面を表示させるかどうかを指定します。
「直ちにチェックアウトする」の場合はチェックアウト画面を表示しないで、すぐにチェックアウトが実行されます。

第 4 章 エラーメッセージ

4.1　エラーメッセージ一覧

4.1 エラーメッセージ一覧

4.1.1 CSV 連携設定ウィザード

◆スキャン指示情報ファイルを指定してください。スキャン指示情報ファイルを開くことができません。
［原因］
指定したスキャン指示情報ファイルが他のアプリケーションで開かれているか、使用しているコンピュータのユーザに読み取り権限がありません。
［対処］
エクセルなどのアプリケーションで、開いているスキャン指示情報ファイルを閉じてください。
スキャン指示情報ファイルのアクセス権が、使用しているユーザに読み取り可能になっているかを確認してください。

◆スキャン指示情報ファイルを指定してください。スキャン指示情報ファイルのフォーマットが不正です。
［原因］
指定したスキャン指示情報ファイルのフォーマットが正しくありません。CSV 形式で保存された、最低 1 行 1 列のデータが必要です。
［対処］
スキャン指示情報ファイルのフォーマットを正しいものにしてください。

◆ファイル名に使用できない文字が含まれています。
\ / : ; ,* ? " < > | ¥ ~
［原因］
保存ファイル名の指定で指定した列のデータに、ファイル名に使用できない文字が含まれているため、保存名として使用できません。
［対処］
スキャン指示情報ファイルの保存ファイル名に使用するデータを正しいものにするか、保存ファイル名に使用する列を他の列に変えてみてください。

◆ファイル名は空文字にできません
［原因］
保存ファイル名の指定で指定した列のデータに、空文字があるため、保存名として使用できません。
［対処］
スキャン指示情報ファイルの保存ファイル名に使用するデータを正しいものにするか、保存ファイル名に使用する列を他の列に変えてみてください。

◆同名のスキャン進捗情報ファイルがすでにあります。上書きしますか？
［原因］
スキャン指示情報ファイルから、スキャン進捗情報ファイルは作成されますが、その名前はスキャン指示情報ファイルの名前が適用されます。
［対処］
「別名で保存」をクリックすると、新しい名前を入力するウィンドウが表示されるので、名前を指定して保存します。「上書き」をクリックした場合は、すでに存在するスキャン進捗情報ファイルは、削除された後、新しいものに置き代わります。
スキャン作業中の情報などは全て失われてしまいますので、ご注意願います。

◆指定したスキャン進捗情報ファイルは現在使用中のため上書き保存できません。
［原因］
保存しようとした同名のスキャン進捗情報ファイルが、現在開かれているため、上書き保存できません。
［対処］
別名で保存するか、一旦ウィザードを終了し、開いているスキャン進捗情報ファイルを閉じてください。

第 5 章 注意 / 制限事項

5.1　注意 / 制限事項

5.1 注意 / 制限事項

5.1.1 スキャン指示情報ファイルの列数

スキャン指示情報ファイルの列数は最大 256 列までしか使用できません。
256 を超える列は無視され、列選択の画面に表示されません。

5.1.2 スキャン結果情報ファイルの拡張子

スキャン指示情報ファイルの拡張子に、「.tif」、「.pdf」、「.xdw」は使用できません。

5.1.3 データ転送中のシングルページ、マルチページ切り替え

BrainTech8090 α /BrainTech8181 αからのデータ転送中にシングルページモードから、マルチページモードへ切り替えを行うと、転送中のデータからマルチページに変更されます。

同様に、データ転送中にマルチページモードから、シングルページモードに変更すると、転送中のデータからシングルページに変更されます。

5.1.4 MS-DOS デバイス名

MS-DOS デバイス名 (con、aux、lpt、prn、nul、lpt1 ～ 9、com1 ～ 9) はファイル名として使用できません。
指定を行った場合は
「指定されたファイル名は、MS-DOS デバイス名です。
MS-DOS デバイス名は、予約語であり、ファイル名として使用できません。」
とエラーメッセージが表示され保存を行う事が出来ません。

索引

数字

アルファベット

A

B

C

D

F

P

S

T

U

W

X

かな

あ

い

え

か

け

さ

し

す

せ

ち

て

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

よ

ら

れ